

件名：	史跡周防鑄銭司跡における新たな銭種「饒益神宝」の発見について
担当課：	山口大学総務企画部 地域連携課（電話：083-933-5962） 山口市教育委員会 文化財保護課（電話：083-920-4111）

■概要

古代の山口市南部には、^{すぜんじ}鑄銭司地域に銭貨の鑄造を行う国の機関・^{すおうのじゅせんし}周防鑄銭司が置かれ、^{すえ}陶地域で須恵器の生産が行われるなど一大工業地帯が存在していました。

なぜ、古代国家の経済的基盤をなす事業がここ山口で展開されたのでしょうか。これを解明するため、山口大学では「山口学研究センター」の研究プロジェクト「古代テクノポリス山口～その解明と地域資産創出をめざして～」として、山口市では「鑄銭司・陶地区文化財総合調査事業」として双方の協働のもと平成28年度より調査を行ってきました。今回、「^{しせきすおうのじゅせんしあと}史跡周防鑄銭司跡」の第4次調査（平成30年度実施）で出土した不明金属片が、新たな銭種「^{にようやくしんぼう}饒益神宝」（859年初鑄）の「^{いそんせん}鑄損じ銭」であることが判明しました。

1. 新たな銭種「饒益神宝」について

- ・生産時期：貞観元年（859）～貞観12年（870）
- ・法量：縦8.4mm、横11.4mm、厚さ1.2mm
- ・発見の経過

平成30年10月2日 4次調査で溝状遺構から不明金属片が出土。

令和4年2月 山口大学人文学部田中客員教授から（公財）^{がんごうじ}元興寺文化財研究所（奈良県）に、不明金属片9点（平成30年度出土2点、令和2年度出土7点）についてX線写真撮影を依頼したところ、銭貨片の可能性のあるものが1点確認されたため、X線CT撮影を実施した結果、新たな銭種「饒益神宝」の可能性が高いことが判明。

令和4年3月18日 山口大学人文学部の実施した古代の銭貨生産及び貨幣史の専門家による現地指導により饒益神宝の鑄損じ銭であることが確定。

2. 発見の意義

①「饒益神宝」の鋳損じ銭が、遺跡から出土したのは日本初のことで、今回の新たな銭種の確認により、「承和昌宝」(835年初鋳)、「長年大宝」(848年初鋳)、「饒益神宝」の3種の銭貨が生産されていたことが考古学的に裏付けられました。

②周防国に設置された鋳銭司は、「常乃鋳銭司」(『日本三代実録』貞観12年〔870〕11月17日乙丑条)と記され、天長2年(825)の設置以降、約200年間、日本で唯一の常設の銭貨鋳造所でした。奈良時代から平安時代にかけて日本で生産された銭貨を皇朝十二銭と呼びますが、うち8種の銭貨を生産したと考えられます。今回の発見を含めた3種の銭貨の生産期間は、史料上の初鋳年から見積もると最長で35年(835年正月～870年正月)であり、ここで銭貨の生産が継続したことが実証されました。周防鋳銭司が古代(律令)国家の財政を支えた重要な存在であったことが、あらためて明らかとなったものです。

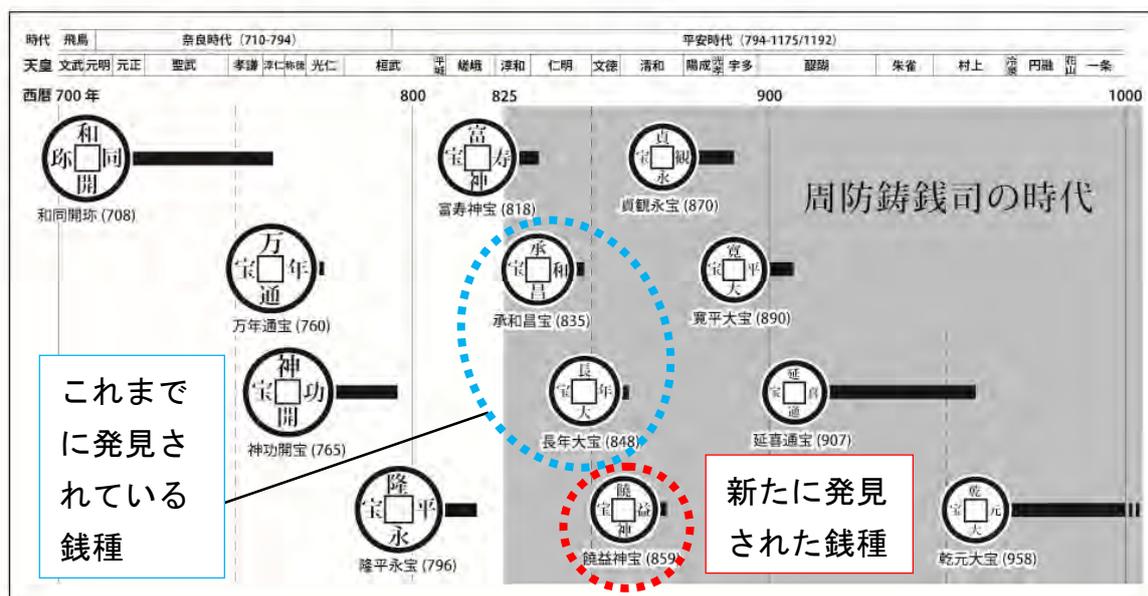


図1 皇朝十二銭の変遷 (山口大学作成図に加筆)

3. 今後の予定

(1)「饒益神宝」の特別公開：

鋳銭司郷土館 令和4年7月15日(金)～8月31日(水)

4次調査出土（平成30年度）

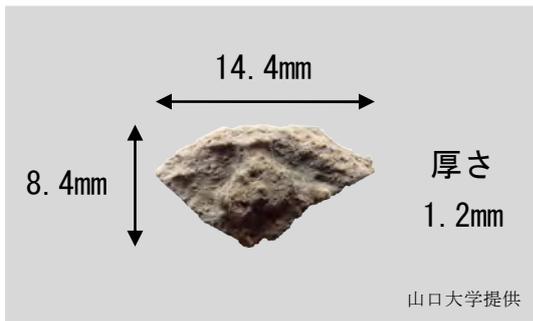


図2 饒益神宝 表面(拡大約200%)
※肉眼では文字は見えない



図3 饒益神宝 裏面(拡大約200%)

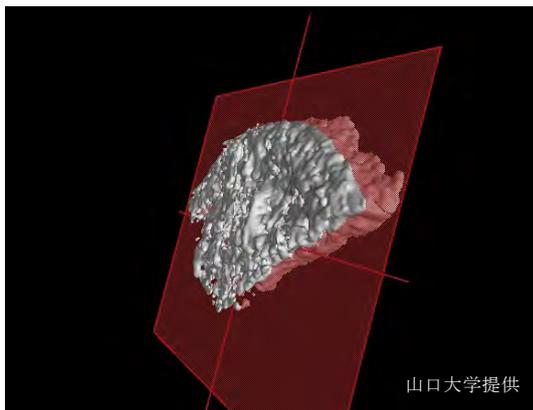


図4 X線CT計測位置(銭文部分)



図5 X線CT画像(銭文部分)

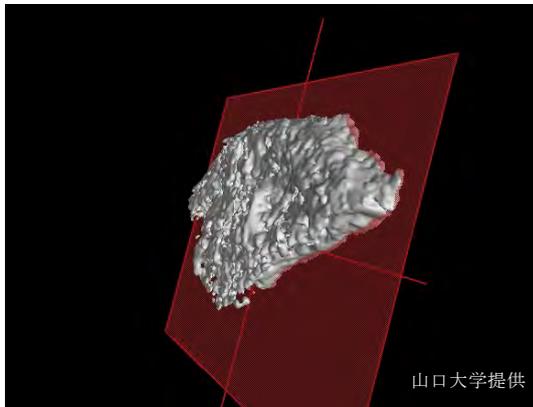


図6 X線CT計測位置(鑄張り部分)

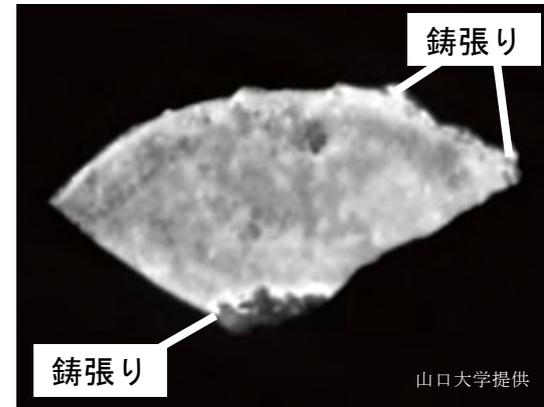


図7 X線CT画像(鑄張り部分)

・ 饒益神宝の文字のうち、「饒」の文字が確認できる。※画像は山口大学提供



図8 今回確認された銭貨片の部位(色塗りの範囲)(拡大約200%)

拓本：黒川古文化研究所 2018『古代銭の実像』より転載



図9 発掘調査地点



図10 史跡全体の現状（南西から）



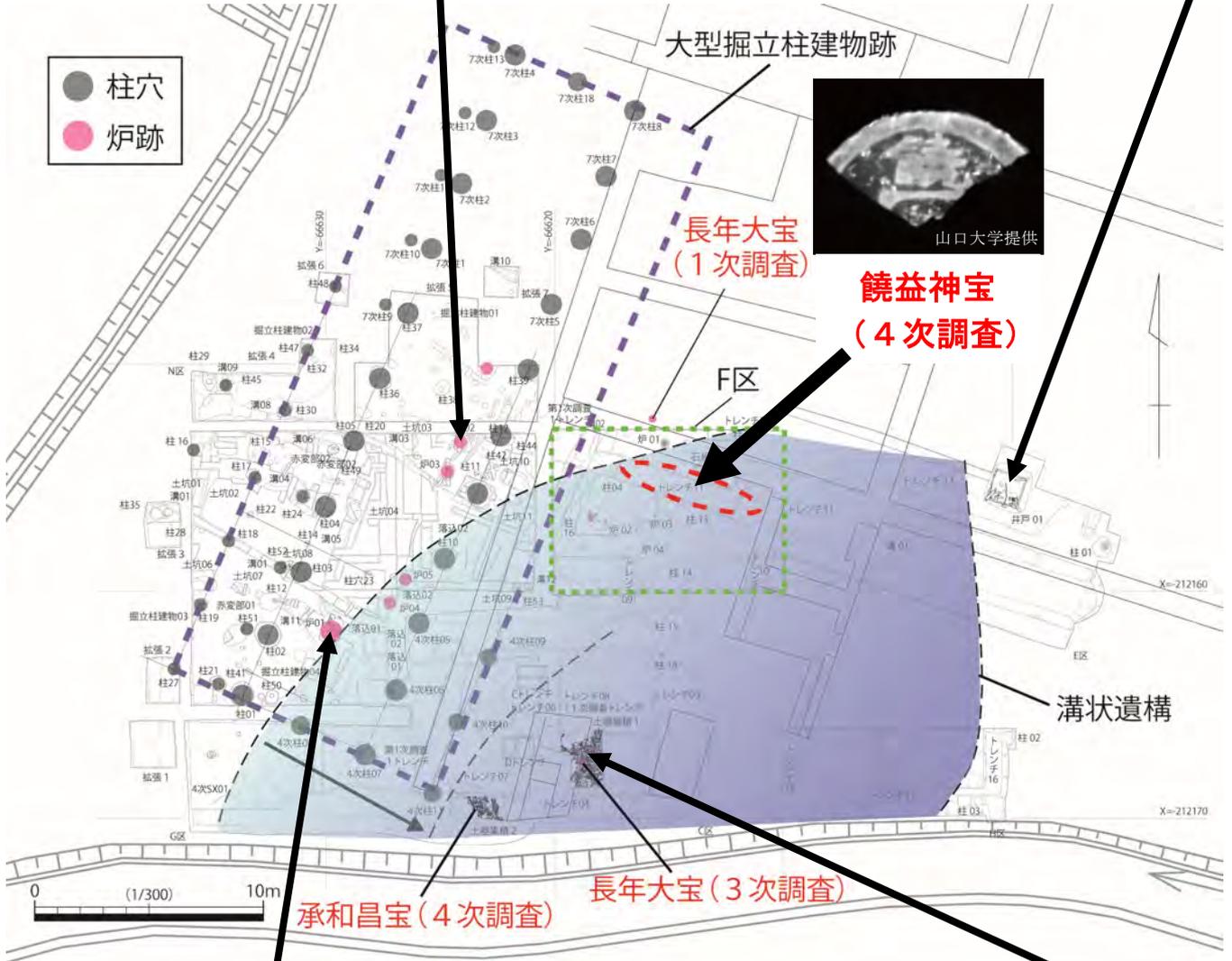
図11 発掘調査の様子（北から）



鑄造炉 (6次)



木組井戸 (4次)



溶解炉 (6次)



土器集積1 (4次)

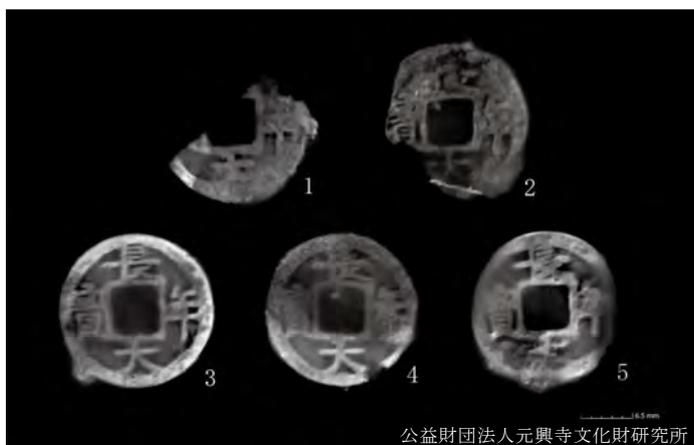
図12 史跡東南部の調査成果

○これまでに出土した鑄損じ銭

3次調査出土(平成29年度)



公益財団法人元興寺文化財研究所



公益財団法人元興寺文化財研究所

図13 長年大寶(原寸)
(上:実物写真、下:X線CT画像)

※画像は公益財団法人元興寺文化財研究所提供

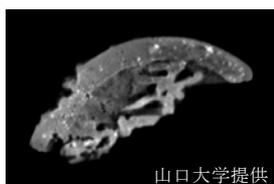
4次調査出土(平成30年度)



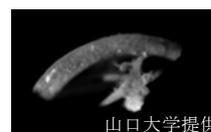
山口大学提供



山口大学提供



山口大学提供



山口大学提供

図14 承和昌宝(拡大約150%)
(上:実物写真、下:X線CT画像)

※画像は山口大学提供